



【日本気象協会からのお知らせ】

2022年9月12日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会、電気新聞主催のオンラインセミナーに登壇 ～風力発電出力予測における気象データ活用について紹介します～

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、2022年9月29日（木）に電気新聞（一般社団法人日本電気協会新聞部、本社：東京都千代田区、部長：間庭 正弘）が主催するオンラインセミナーにて、講演『風力発電出力予測における気象データ活用について』を行います。

なおオンラインセミナーは参加費無料で先着順の申し込みとなっています。

<講演概要>

- 日時 : 2022年9月29日（木）15:00～17:00
- 開催形式 : Zoomのウェビナー機能によるオンラインセミナー（ライブ配信のみ）
- テーマ : 「洋上風力 大型化への展望とリスクへの対応」
- 参加費 : 無料
- 主催 : 電気新聞
- 協賛 : NTTコムウェア株式会社
- 定員 : 500名（先着順）
- 申し込み方法 : 電気新聞のホームページから申し込み可能
https://www.denkishimbun.com/event/seminar/seminar_form
- 申し込み締切り : 2022年9月27日（火）16:00※定員に達し次第、締め切り

<日本気象協会の講演概要>

- 日時 : 2022年9月29日（木）16:30～17:00（30分）
- 講演タイトル : 「風力発電出力予測における気象データ活用について」
- 講演者 : 一般財団法人 日本気象協会 事業本部 環境・エネルギー事業部 エネルギー事業課
風力予測分野統括 松田 真
- 講演概要 :

2022年4月にFIP制度^{※1}が施行され、今後は風力発電所を所有する発電事業者なども日々の発電出力を正確に把握する必要があります。一方で、風力発電の原動力となる風は気象条件に大きく左右されるため、風力発電出力を正確に把握するためには気象データの高度利用が必要不可欠です。そこで本講演では、気象データを活用した風力発電出力予測技術のほか、洋上風力を予測対象とした場合の留意点や導入拡大を見据えた最新の取り組みを、日本気象協会の風力予測分野統括である松田がご紹介します。

※1 FIP制度

「フィード・イン・プレミアム」のことで、再生可能エネルギーにより発電した電力を発電事業者自らが電力市場で売電することを原則としている。その売電の際、変動する市場価格にプレミアム（上乗せ価格）をつける制度のこと。

以上